

同じ字を探す 2



(g)

(g)は、最初の3文字が「三嶋宿」で、**嶋**は、偏が「山」(これは難しい)、旁が「鳥」です。したがって「三嶋宿」です。「三宿」(は不明または保留)で、適当な宿場を探せば、「三嶋(三嶋)」だと予想もできます。

次の3文字は「丸子宿」で、これは余り崩していませんから、大丈夫だと思います。

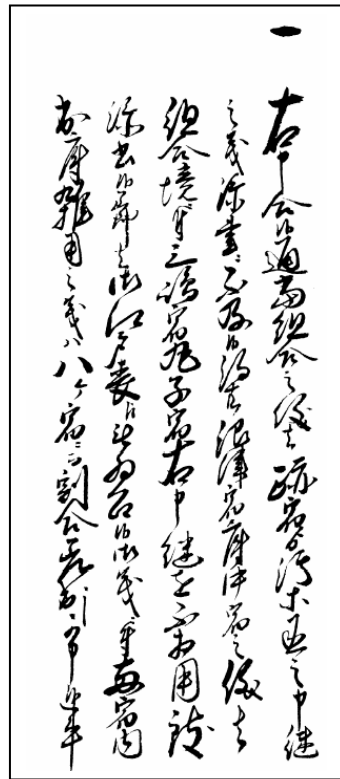
次の**右**は「右」。次は、第32回の(d)#で先に出しましたが、「申継」です。**申**はひらがなで「を」。「**申**を」というとき、「**申**ヲ」と片仮名で表記されることもあります。また、「以書付(書付を以て)」のように、「**申**(ヲ)」が表記されないこともあります。

次の**不**は、第32回でも出てきた「不」です。次の**不**は、この字だけでは、わかりにくい字です。しかし、次が「用」ですので、「**右申**継を**不**常用」となっていることを考えれば、**不**は「相」ではないか、と想像できます。(g)は「三嶋宿・丸子宿、右申継を不相用」となります。

(h)は、最初の**致**が難問で、この字は、偏が「金」に見え、旁も「支」に見えるような、難しい崩しです。この字は、初めて出てきますが、「致」という字です。頻出する字ですから、ここで覚えてしまってください。

次の**添**は第32回で**添**と出てきた「添」です。第32回では「添書」と出てきましたので、次の**書**も「書」ではないか、と予想して「くずし字辞典」などを引いてみると、やはり「書」です。「書」には、いろいろな崩し方があるのです。

次の**候**は「候」。**節**は、擦れていて見にくいですが、右下の**節**の部分などを手がかりに、「節」と読めます。最後の**者**は、お馴染み(?)となった「者(は)」です。(h)は「添書き致し候節は」となります。



(h)

